

香川ブロック 連携事業戦略シート

2018年10月26日

公益社団法人日本青年会議所

2019年度 四国地区協議会

香川ブロック

会長 友枝 俊陽

1 SDGs達成に向けた運動について

国連は、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(SDGs)を掲げ、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。

「誰も取り残さない」世界を目指し気候変動や経済的不平等、イノベーション、持続可能な消費、平和と正義などの新たな分野を優先課題として盛り込んでいる中で、私たちはある目標を達成するために、いま正しい選択をすることで、将来の世代の暮らしを持続可能な形で改善することが必要です。すべての国や地域、各自治体が、それぞれの優先課題や、環境課題に応じた取り組みを行っていく必要があります。SDGsの開発目標を基に誰もが安心して暮らせる地域社会の実現と、魅力あふれる地域資源を活かした経済成長へと繋がる新たな産業へと繋がる持続可能な地域を目指したまちづくりを行います。

2 ブロック連携事業の構築

① 地域社会でSDGsを達成していくための事業の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール6. ターゲット1

(目的)SMILE by WATER 事業を通じて、2030年までに、すべての人々に、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する。

II. ゴール8 ターゲット9

(目的)魅力あふれる地域資源を活かした新たな財を掘り起こし、その魅力によって地域の文化や製品の発信力を強め、新たな産業・経済へと繋げ持続可能な経済を創出につなげる。

【KPIの設定】前項と連動

I. SMILE by WATER 事業を通じて、香川ブロック協議会会員をはじめ県内の地域イベントなどと連携し、10,000人募金を行う。

II. 香川ブロック大会事業参加者500人に対し新たな財を3つ以上提案し新たな魅力を発信する。

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

社会問題に対する意識を向上させ地域社会に対し、問題意識の醸成をはかることによりESG投資の理解をはかることで地域の持続的成長へとつなげる。

2)MOTIVATE(意欲)

SDGsに対する考えや意識を高め、問題解決に対し挑戦する勇気と新たな取り組みによる刺激とモチベーションの創出に繋がります。

3) INVEST(投資)

地元の文化・製品の販促につながる持続可能な経済を促進するために、地元にある財を掘り起こしその魅力によって経済成長をはかれるよう投資を行う。

4) COLLABORATE(協力)

香川県や各自治体、地元地域住民と協力する。

5) CONNECT(つながり)

これまでの資源だけでなく新たな財を掘り起こし、持続可能な経済の創出つなげる。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): SDGsの重要性を理解し、多くの人に広めていく必要性があります。

How(手法): 香川ブロック大会事業として開催します。

What(対象): 県民および会員。

【外部協力者・種別】

香川県、外郭団体等

② 地域に則した社会保障影響を制度と地域のあり方を考える事業の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール10. ターゲット4

(目的) 社会保障制度政策に関する公開討論会を実施し、持続可能な社会保障制度について考える。

【KPIの設定】前項と連動

参議院選挙における討論会を開催し、投票率60%を目指す。

【5つの戦略】

1) IMPACT(影響力)

社会保障費の増加に伴う財政問題について議論し、日本の持続可能な社会保障に主体的に考えられる人へと導きます。

2) MOTIVATE(意欲)

社会保障費の増加に伴う財政問題に対する意識を深め、子供や孫たち将来世代へ負担の先送りをしない地域、日本を創造します。

3)INVEST(投資)

県民の意識変革を促す機会に投資し、社会参画意識を促し社会保障費の在り方を真剣に考えます。

4)COLLABORATE(協力)

香川県選挙管理委員会と各種団体等と協力し運動の推進をはかり、事業を行います。

5)CONNECT(つながり)

討論会を通し県民に持続可能な社会保障と社会の実現につなげていきます。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 社会保障費の増加に伴う財政問題を改善する。

How(手法): 参議院選挙における討論会を実施する。

What(対象): 県民の参画意識を促します。

【外部協力者・種別】

香川県選挙管理委員会、各種地域団体

③ 多子社会の実施へ向けた議論を推進する事業の実施

【SDGs設定】

I. ゴール11. ターゲット3

(目的) 多子社会を実現するために、香川県での実態に即したあるべき人口増を描く議論を推進し、多くの人が子供を産み育てることのできる社会のあり方を模索し、誰もが子供を産み育てられる喜びを感じることで社会の仕組みを考えます。

【KPIの設定】前項と連動

I. 事前アンケートを300人に実施し、そのデータを基に高校生や若者60人を中心に青年会議所メンバーや行政、各種団体を交えたワークショップを開催する。

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

多子社会の実現に向けた議論を推進する事業を行うことで、多くの人が子供を産み育てる喜びを実感でき、一人でも多くの子供を産み育てることのできる社会の実現を目指します。

2)MOTIVATE(意欲)

香川県で誰もが子供を産み育てることに喜びを実感できることのできるために議論する場を設け、人口減少による社会影響についても考えることで多子社会の実現に向けた意識変革を起こします。

3)INVEST(投資)

人口減少が引き起こす未来の課題に関する啓発活動に投資を行い、誰もが子供を産み育てられる喜びを感じることのできる社会の仕組みを考え意識の向上を目指します。

4)COLLABORATE(協力)

香川県、香川大学、子育て NPO 団体、高校生に参加していただきます。

5)CONNECT(つながり)

JC がハブとなり行政をはじめ各種団体や若者とつながります。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由):誰もが子供を産み育てられる喜びを感じることのできる社会の実現をするため。

How(手法):多子社会を実現する議論を推進する。

What(対象):次世代を担う若者、誰もが子供を産み育てることに喜びを実感できることのできる香川の構築。

【外部協力者・種別】

香川県 香川大学 子育て NPO 団体 高校生 ・ 協力

④ ブロックと連携した会員拡大支援の企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール10. ターゲット2

(目的)20歳から40歳の青年に成長の機会を与えるために、香川ブロック内6LOM の会員拡大の支援を行い、他団体との交流を通じ青年会議所との接点を広げ組織の拡大を図り

【KPIの設定】前項と連動

香川ブロック協議会、会員総数330名(2019年期首比33%増)を達成します。

LOM メンバー30名以下の LOM を失くします。

【5つの戦略】

1) IMPACT(影響力)

会員減少や拡大に悩む LOM に対し、会員拡大と人材育成の大切さを周知し、持続的な会員拡大の実現を促します。

2) MOTIVATE(意欲)

各LOMで開催する交流会等へブロック内全てのLOMから積極的に参加し、より多くの人と交流できる機会をつくり、繋がりが広がることへの喜びを醸成します。

3) INVEST(投資)

香川ブロック協議会から常に包摂的な支援が可能になる仕組みの構築に対し投資を行い、継続的に拡大支援が可能な拡大システムを確立します。

4) COLLABORATE(協力)

ブロックとLOMの連携を密に行うとともに、LOM同士の連携を取れるようにブロックが支援することや、毎月開催される会員会議所において拡大推進の進捗を確認し、目標を立てブロック全体で行なっていきます。

5) CONNECT(つながり)

各LOMの理事長をはじめ、拡大担当者や先輩に協力を依頼し、各LOMが開催する交流会に多LOMより一人でも多くが参加し交流をし会員拡大を達成する。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 会員拡大と人材育成の必要性を共有し持続可能な拡大支援を構築するため。

How(手法): 各LOMの交流会に6LOMから交流会に参加し県下での交流域を広げ拡大に繋げる。

What(行動): 各LOMの交流会に誰もが積極的に参加する。

【外部協力者・種別】

シニアメンバー ・ 協力、参加

⑤ ブロックアカデミー事業と連携したカリキュラムの企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール4. ターゲット4

(目的)LOMの活動だけでは得ることのできない体験や機会を提供するためにアカデミーKAGAWAを開催し、カリキュラムを通じて横の繋がりを構築するとともに傑出したメンバーを育成します。

【KPIの設定】前項と連動

アカデミーKAGAWAを年3回(4月、6月、8月)実施する。

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

アカデミーKAGAWA でカリキュラムを実施し、ブロック内の同志と協力して物事を達成することで横のつながりを得ることのできない体験を提供します。

2) MOTIVATE(意欲)

共に考え、教え合い、学び、率先して行動できる傑出した人財を育成する。

3) INVEST(投資)

メンバーの発展・成長の機会を提供することに投資を行い、傑出したメンバーを育成します。

4) COLLABORATE(協力)

6LOM のアカデミー担当者、会員拡大担当者が協力して人財育成をする。

5) CONNECT(つながり)

カリキュラムを通しメンバーが横のつながりを大切にし、これからの活動につなげる。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): LOMの活動だけでは得られない体験や知識を得る機会を提供するため。

How(手法): アカデミーKAGAWAの開催を通じて統一カリキュラムを実施します。

What(対象): 多様性社会を先導する傑出したメンバーを育成します。

【外部協力者・種別】

3 アクションプラン

3.1 ブロック協議会としての役割

香川ブロック協議会は全員が挑戦し、誰一人取り残さない日本社会の実現を目指し、誰もが挑戦できる幸せな国 日本への創造に向けて、地域社会で SDGsを達成していくために6LOM が連携して自分たちが住み暮らす地域社会の問題と真摯に向き合い問題解決に向け明るい灯を照らすことに繋げるための運動を行っていきます。また、会員拡大とブロックアカデミーを開催し、新たなメンバーの成長に繋がるカリキュラムを実施する中で、傑出したメンバーを育成し今後の青年会議所の担い手となるメンバーを増強してまいります。各LOMのメンバーがブロック協議会の事業や会議、様々な友好的な機会を通して、青年会議所活動に対する意識を高揚させ、様々な価値観や物事の捉え方を共有することにより自らの器や知識を深めることにより、積極的な変化を遂げ、次のメンバーへの能動的に活動できる機会を与え続けられることによりスパイラルアップする環境を創造できる協議会であり続けることが大切であると考えます。協議会の在り方として、各LOMの模範となるような会議の進行、役員の在り方、事業の推進、本会の運動をしっかりと協議会内の運動をはじめ、各LOMがそれぞれの地域において、スムーズに展開できるように支援し、しっかりと検証を通して、運動が単年度で終わらないように、地域

が活性化されるように、そして、青年会議所が地域にとって必要とされるように人としての在り方、協議会としての在り方、LOMの在り方をしっかりと指示せるようにしていくことが重要だと考えます。そして、本年は会頭輩出ブロックとしての責任を自覚し、メンバー各位が日本青年会議所の行う事業に積極的に参加し学びの機会を大切にしていきます。

3.2 ブロック独自の事業

- ・香川ブロック大会式典・事業の開催
- ・JC カップサッカー大会の開催
- ・投票率向上に繋げる運動の推進
- ・災害支援ネットワークの再認識と連携確認
- ・ホームページの運営

3.3 1年後の姿

ブロック内すべてのメンバーがSGDsを通じ、自らが住み暮らす地域の問題意識に対する考えを深め、更には日本国内のみならず世界の問題意識にも関心を深め、目の前の問題のみならず大局から捉え、青年経済人として責任世代を生きる人間としての自覚をもつことができると考えます。私たちは次世代のために今、直面するあらゆる問題に真正面から向き合い、我々の手で地域再興、日本創成を成し遂げていかななくてはなりません。自らが地域を思い、日本を思い、行動し主体的に地域づくりを担う人材を育成していきます。私たち地方に住むものこそ、日本そのものであります。また、青年会議所あり方そのものが社会の縮図であるように近年感じております。人口減少イコール会員数の減少、地域経済イコール運動発信の停滞とも感じとれます。誰一人取り残さない日本社会の実現を目指し、誰もが挑戦できる幸せな国 日本創造に向けて一人でも多くの同志を増強し、私たちの香川、私たちの日本を世界に誇れる地域、国へと導く先駆者として私たちは日々、青年会議所運動に邁進してまいります。

以上。